

も亦自ら異なりとす。

新疆の住民は、哈薩克、蒙古族、纏頭回、漢回、滿人、漢人の六人種なるも、若し精細に區別せば、一種族の内には、尙ほ幾多の雜種族混交せり。又其の生活状態を觀察するときは、或は四時水草を逐ふて游牧する太古以來の野民族あれば、山野に土着して専ら農業に従事する種族あり。耕牧兼業の民族あれば、都市に土着する商工業人ありて、大抵其の類を以て部落せり。又宗教に於ても、哈薩克、纏頭回、漢回の如き回々教徒あれば、蒙古族の如き喇嘛教徒あり。斯の如き各様の種族社會は、概ね種族同志の交際のみ多く、他種族との交際は極めて少なし。而も萬事只祖先來の遺風を墨守して、世間と推移するを知らず。教育を振興して、知識を世界に求むるを敢てせず。加ふるに四圍山岳の險は、自然に世間と懸け隔りて、東西文明の潮流に近接すると稀なり。是を以て、各種族の人情、智識、氣風は、依然進化の氣運に向はず。隨て其の衣食住等の風俗習慣は、殆んど變化なく、今尙ほ太古の如き状態を存せり。今其の各種族の人情、氣象、風俗、習慣の梗概を左に記載せんとす。